

第 6 章 アジア歴史資料センター

中期目標

- i) アジア歴史資料センターの業務については、「アジア歴史資料整備事業の推進について」（平成11年11月30日閣議決定）に基づき、引き続き、我が国とアジア近隣諸国等との間の歴史に関し我が国が保管する資料につき、国民一般及び関係諸国民の利用を容易にするとともに、これら諸国との相互理解の促進に資するものとしていくこと。
- ii) i) の考え方にに基づき、引き続きデータベース構築作業等の業務の効率化に努めつつ、国内外の利用者のニーズをよりよく反映した情報の提供、広報活動・調査等を行い利用者の拡充を図ること。
- iii) アジア歴史資料センター提供資料の充実を図るため、資料の提供を受けている館、外務省外交史料館及び防衛省防衛研究所図書館のほか、その他の機関が所蔵するアジア歴史資料についても、その内容、所在の把握に努めること。
- iv) 現行のデータベース構築計画期間以降のデータベース構築の在り方について、平成23年度までに検討し、結論を得ること。

中期計画

①アジア歴史資料データベースの構築

- i) 前期計画に引き続きデータベース構築業務の効率化を図り、受入れ資料の1年以内の公開を実施する。
- ii) 国内外の利用者のニーズをよりよく反映した情報提供システムの改善を図る。

②アジア歴史資料センターの利活用の推進

- i) 多言語対応や検索手段の充実等をはじめ、アジア歴史資料センターのホームページの改善を図る。
- ii) アジア歴史資料センター提供資料の充実を図るため、国内の機関が保管するアジア歴史資料について、その内容、所在の把握に引き続き努める。
- iii) 前期計画に引き続き、計画的かつ効果的な広報活動を実施する。
- iv) 利用者の拡充を図るため、インターネット上の特別展を実施する。
- v) 学校教育等をはじめ、国内の大学や研究機関との関係強化を図るため、セミナー、デモンストレーション等を効果的に行う。
- vi) 関係諸国民の利用を容易にし、併せてアジア近隣諸国等との相互理解の促進に資するため、国外の大学・研究機関との交流を行う。

③データベース構築の在り方についての検討

平成23年度までに、これまでのデータベース構築の実績や今後に向けた課題を洗い出した上で、平成24年度以降のデータベース構築の在り方について検討し、結論を得る。

実績

1. アジア歴史資料データベースの構築

- (1) 資料の新規公開

館、外務省外交史料館及び防衛省防衛研究所（以下「三機関」という。）から提供を受けた資料については、いずれも受入れ後1年以内に公開を行った。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
公開画像数（累計）	2,246万	2,440万	2,600万	2,810万	2,913万

（2）情報提供システムの改善

- ・既公開データの遡及点検を行い、目録データや画像リンクエラーの修正を行った。
- ・「辞書」機能及び「表記ゆれ検索」機能の充実、図・写真を含む資料や外国語資料を絞り込んで検索できる機能の実装など、検索精度の向上を図った。

	24年度	25年度	26年度
遡及点検作業での修正箇所数（件）	1,137	1,451	1,002

（3）アジア歴史資料データベース構築のあり方についての検討

平成24年度以降のデータベース構築のあり方については、アジア歴史資料センター諮問委員会の提言を踏まえ、三機関と協議を行い、①アジア歴史資料データベース構築の重要性は今後も変わらないこと、②三機関は、今後も継続的にアジア歴史資料センター（以下「アジ歴」という。）の事業遂行のために必要な協力を行うこと、③平成24年度以降のデータ提供数及び提供時期等については、各機関の予算確保等の状況を踏まえつつ、年度ごとに定めることとされた。

2. アジ歴の利活用の推進

（1）情報提供資料の拡大に向けた取組

① リンクによる情報提供

情報提供資料の拡大を図るための取組として、新しくリンクによる情報提供方式を導入することとし、平成25年から琉球大学附属図書館所蔵・公開資料「宮良殿内文庫」など、全968件の情報提供を開始した。

② アジア歴史資料の所在の把握

平成18～20年度に実施した「国内資料所在調査」の追加・更新を行った。

（2）アジ歴の理解促進

① インターネット特別展の企画・作成

アジ歴ホームページ上で提供する展示コーナーであり、歴史上の出来事に関連する公文書等を紹介するものである。第3期中期目標期間中は、日本語版3つ、英語版2つの特別展を公開するとともに、より小規模な展示として、日本語版1つ、英語版1つの特集を公開した。

平成25年度は、初めて海外の機関（大英図書館）の協力により、同館が所蔵する日清戦争関係の版画コレクションとアジ歴データベースによる公文書等を併せて紹介するインターネット特別展を企画・作成した。

② 国内における広報活動

認知度の向上と利用者層の拡大を図るため、文書館、図書館、博物館、学校、研究機関、学協会等が主催する会議、展示会等の機会を利用して、デモンストレーション、ブース展示、講演等を行っている。

国内におけるデモンストレーション、ブース出展等の実施件数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
実施件数	10	9	43	23	17

また、平成23年度に実施した「アジア歴史資料センターの利用拡大に関する調査」では、利用者を類型化して、それぞれに効果的な広報を行うべきとの結果が取りまとめられた。それを受けて、資料展示の企画立案や利用者へのレファレンス・サービス等の場面で利用が期待できるなど、広報効果が高いと考えられる図書館、博物館の専門的職員（司書、学芸員等）を対象としたアジ歴紹介事業を、平成24年度から26年度まで合計74回実施した。具体的には、都道府県ごとに設置されている図書館協会、博物館協会等が主催する総会、研修会等に出向き、アジ歴紹介やデモンストレーションを実施するとともに、協会事務局から加盟館名簿の提供を受けて、各館あてにアジ歴リーフレット及びポスターを送付した。

③ 海外における広報活動

国際公文書館会議や海外の日本研究者の会合等に参加し、展示ブースの出展や講演を行い、認知度の向上及び利用の拡大を図った。

海外におけるデモンストレーション、ブース出展等の実施件数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
実施件数	7	7	3	6	5

④ ニュースレターの発行

平成23年度に、メールマガジン方式によるニュースレターを創刊し、第3期中期目標期間中に計14号発行した。第12号（平成25年12月）からは、広報効果の向上等を図るため、内容・デザインを刷新した。

アジ歴ニュースレター

	23年度	24年度	25年度	26年度
配信回数	4	3	4	3
登録者数	526	661	1,023	1,445